

上新屋遺跡通信

No. 2

(財) 浜松市文化振興財団・浜松市生涯学習課文化財担当

2008年6月24日



◆ 調査を始めて3週間が経過しました

6月2日から開始した発掘調査も3週間を経過しました。例年より早い梅雨入りで、天候の影響を心配しましたが、これまでのところ雨が降り続くこともなく、調査は着実に進んでいます。作業をしていると、通りかかった地域の方が、興味深げに遺跡内をのぞいていかれたり、「何か出てきたの?」と尋ねてこられたりします。何度も立ち寄っていただき顔なじみになった方もおり、遺跡に関心をもっていただけていることをうれしく思っています。

現在(6/20)は、中世の地層を掘り終わり、古代の地層を掘り進めています。これまでの調査で、調査区の北東側に水田が広がり、南西側には土器が集中して出土する場所や、建物の柱穴と思われる遺構があることから、集落があったのではないかと推測されます。ただし、明確な建物跡などはまだ確認されていません。

◆ こんなものが見つっています



1m弱の四角い穴の中に木材が



穴の中から土器片と石が



その下からも土器がたくさん

建物の柱を埋めた穴ではないかと思われま。周りから同様の穴が規則的に見つければ、間違いありません。

直径 50 cmほどの穴の中に石と土器が詰め込まれています。これは、柱を立てるときの基礎として埋められたと考えることができますが、ただのゴミ穴なのかもしれません。判断が難しいところです。

◆ 調査の進め方

調査をしていると「どうやって掘る場所が分かるのですか？」と聞かれますが、土の色や質に大きな手がかりが隠されているのです。大昔の人々が地面に穴や溝を掘ったとします。そこが埋まるとき、元々の土とは違う色や性質の土が入り込むわけ。したがって、平面や断面から観察したときに土の違いが見えてくるので、それを手がかりに掘っていくわけです。



周りの壁から断面を確認し、平面へのつながりを観察

色の違いが分かりますか？



調査区表面をきれいに削って平面を観察

◆ 発掘調査現場は見学できます。

上新屋遺跡の発掘調査は、平日の晴天時、午前8時30分から午後4時30分まで実施しています。作業時間内でしたら、発掘現場を見学できます。お気軽に担当までお問い合わせください。

なお、作業時間以外の現場立入は危険ですので、ご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。

